

街の元気 ● みんなの元気を応援します ●

VIVA city

ビバ
*
シティ

公益社団法人
石川県柔道整復師会

石整広報 122

VOL.
36

2026
September

第51回 定時総会を開催
北信越学術大会 石川大会
北信越ブロック柔道大会 石川大会

SSTRビクトリーロード
なぎさドライブウェイ

[柔道整復師倫理綱領]

国民医療の一端として柔道整復術は、国民大衆に広く受け入れられ、民俗医学として伝承してきたところであるが、限らない未来へ連綿として更に継承発展すべく、倫理綱領を定めるものとする。

ここに柔道整復師は、その名誉を重んじ、倫理綱領の崇高な理念と、目的達成に全力を傾注することを誓うものである。

- 1、柔道整復師の職務に誇りと責任をもち、仁慈の心を以て人類への奉仕に生涯を貫く。
- 2、日本古来の柔道精神を涵養し、国民の規範となるべく人格の陶冶に努める。
- 3、相互に尊敬と協力に努め、分をわきまえ法を守り、業務を遂行する。
- 4、学問を尊重し技術の向上に努めると共に、患者に対して常に真摯な態度を以て接する。
- 5、業務上知りえた秘密を厳守すると共に、人種、信条、性別、社会的地位などにかかわらず患者の回復に全力を尽くす。

特集

石川県柔道整復師会創立100周年

・社団設立50周年 協同組合設立30周年

記念式典を挙行

令和7年11月9日（日）ホテル金沢において、石川県柔道整復師会創立100周年・社団設立50周年・石川県柔道整復師協同組合設立30周年記念式典を開催しました。多くのご来賓を迎えて挙行された式典を通じて本会の歴史を振り返るとともに、新たな旅立ちに向けた節目の一日となりました。

記念式典

午前11時
開式

関軒奈々恵氏
により式典が
進行された。



式典開始を前に物故者法要が行われ、国歌斉唱の後、西川典孝副会長の開会の辞により記念式典が始まりました。

厳粛な雰囲気の中で二ッ谷剛彦会長が式辞を述べ、本会が積み重ねてきた歴史を尊重しながら柔道整復師としての新しい道を模索していくと決意を示しました。続いて、ご臨席を頂いた

多数の皆様の中から馳浩石川県知事をはじめ9名の方々より心温



物故者法要、国歌斉唱と続く式典会場に厳粛な空気が流れる。

二ッ谷剛彦会長は次の100年への決意を込めて式辞を述べた。

二ッ谷会長式辞より

100年の歩みを礎に新たな分野に挑んでまいります

令和6年1月に能登半島地震、さらに9月に集中豪雨と、未曾有の災害が本県を襲いました。度重なる災害に打ちひしがれる中、全国の柔道整復師会並びに関係団体の皆様より頂いた心温まる励ましの言葉やご支援は、被災地の皆様、そして被災した本会会員にとって大きな支えとなりました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

振り返りますと大正14年、わずか7名の先達によって本会の歩みが始まりました。以来100年にわたり柔道整復術という日本の伝統医療を守り続



開会の辞を述べる
西川典孝副会長。



け、脈々とその施術技術を受け継いでまいりました。また近年では専門性を活かしたフレイル予防や機能訓練指導、スポーツ現場での救護活動、県との協定に基づく災害時救護活動といった分野にも積極的に取り組んでおります。

100周年という大きな節目を迎えた今、これまで築き上げてきた歴史と伝統を礎に災害時における支援体制のさらなる強化を図り、地域医療との連携、介護・福祉分野への参画など地域包括ケアの一翼を担う存在として、より一層地域社会に貢献してまいります。今後も、県民の皆様から信頼される専門職としての責任と誇りを胸に使命を果たしてまいります。

(要旨抜粋)

まるご祝辞を頂きました。その中で馳知事は、地域医療と県民の健康増進に尽力してきた本会の歩みに敬意を表するとともに能登半島地震や豪雨災害時における被災者支援活動に謝意を述べられ、今後のさらなる発展と活躍に期待を寄せてくださいました。

温かい
ご祝辞を賜り
ました



馳 浩
石川県知事



村山 卓
金沢市長



岡田 直樹参議院議員
＜代理 丹後智浩秘書＞



西田 昭二
参議院議員



小森卓郎衆議院議員
＜代理 太田真樹秘書＞



宮本 周司
参議院議員



安田 健二
石川県医師会会長



米澤 寛
石川県中小企業団体中央会会長
＜代理 横川浩三専務理事＞



長尾 敦彦
日本柔道整復師会会長

表彰式

柔道整復師として、地域社会への貢献に努めた方や業界の発展に寄与された方々への表彰が行われ、県知事表彰を受賞した岡本透会員、津田佳之会員、高出伸也会員には馳浩石川県知事より賞状が授与されました。

また日本柔道整復師会から計55名、石川県柔道整復師会から計48名の会員が表彰されたほか、12社の協力業者の皆様に協同組合から感謝状が贈られました。

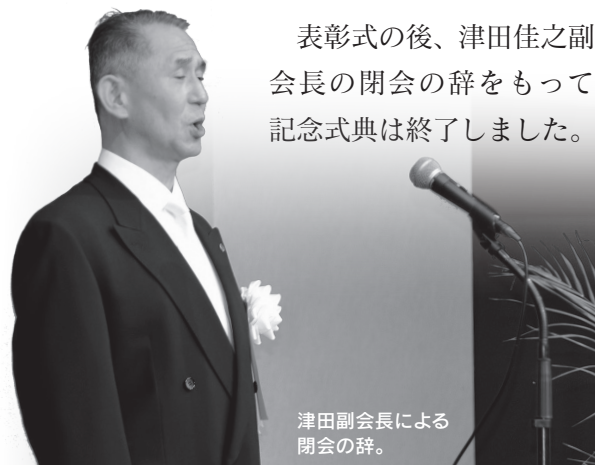


日本柔道整復師会表彰は長尾会長がプレゼンターを務められた(写真は会長表彰の西川典孝会員)。

石川県柔道整復師会からの表彰は二ツ谷会長から授与された(写真は会長表彰の森田一哉会員)。



表彰式の後、津田佳之副会長の閉会の辞をもって記念式典は終了しました。



津田副会長による閉会の辞。

※以上、記念式典当日の役職名で掲載いたしました。

祝賀会

午後1時

勇壮な御陣乗太鼓とともに 華やかに開宴

会場スクリーンに映し出された懐かしい映像とともに、会のあゆみを振り返る出席者の姿も見られました。



本会から御陣乗太鼓保存会の皆様に災害見舞金が贈呈された。



乾杯は下沢石川県議会議員に。

佐々木衆議院議員よりご祝辞を賜った。



会場は終始、和やかな雰囲気になっていました。



ニッ谷剛彦会長

主催者を代表してニッ谷会長と橋本理事長が挨拶を行った。



橋本大衛理事長

ほの暗く静まり返った会場に響きわたる御陣乗太鼓の勇壮な雄たけびを合図に祝賀会が幕を開けました。輪島市名舟町の御陣乗太鼓は400年以上の歴史を持つ能登を代表する郷土芸能です。能登半島地震を乗り越え、伝統を守りながら復興を目指す気迫と希望のこもった太鼓の音は、能登人の力強いメッセージとして聞く者の胸に響きました。

その後、西川典孝副会長の開宴の辞、ニッ谷剛彦会長、橋本大衛協同組合理事長の主催者挨拶に続いて佐々木紀衆議院議員よりご祝辞を賜りました。下沢佳充石川県議会議員による乾杯のご発声で祝宴が始まると、会場は一気に和やかに。上映された100周年プロモーションビ

デオを観ながら談笑を交わすなど、参加者同士が旧交を温める様子が見られました。

宴の結びには竹藤敏夫日本柔道整復師会副会長による万歳三唱が行われ、津田佳之副会長の閉宴の辞で盛会のうちに祝賀会は幕を閉じました。

竹藤日本柔道整復師会副会長による万歳三唱で賑々しく。



街の元気 ● みんなの元気を応援します

viva city

ビバ
シティ

公益社団法人
石川県柔道整復師会

石整広報122

VOL.
36

2026
September

C O N T E N T S

巻頭特集 石川県柔道整復師会創立100周年
社団設立50周年 協同組合設立30周年

1 巻頭言

身近な医療専門職として地域社会を支える存在に ニッ谷 剛彦

2 第51回定時総会を開催

5 講演会／研修会

公開学術講演会

会員学術研究発表会

実技講習会

8 北信越学術大会 石川大会

10 北信越ブロック柔道大会 石川大会

11 会期争奪少年柔道大会・少年柔道形競技会

13 喜びの受賞者

17 サポート接骨石川 (SSI) 活動報告

18 石川県柔道整復師協同組合 第32回通常総会を開催

新入会員紹介

19 インタビュー 素顔の柔道整復師

21 secret spot 日没の千里浜を疾走 SSTR

22 トピックス

創立100周年に寄せて——

身近な医療専門職として 地域社会を支える存在に

公益社団法人石川県柔道整復師会は、昨年創立100周年という大きな節目を迎えました。この記念すべき年を迎えることができましたのも、長年にわたり当会の活動を支えてくださった県民の皆様をはじめ、関係機関並びに諸先輩方のご支援とご厚情の賜物であり、心より感謝申し上げます。100年という歴史は、多くの先人が地域医療に真摯に向き合い、県民の健康と福祉の向上に尽くしてこられた歩みの積み重ねです。そして、この節目は過去を振り返るだけではなく、次の100年へ向けた新たな一歩を踏み出す出発点でもあります。

本県では能登半島地震により多くの尊い命と日常が失われ、今なお復旧・復興への歩みが続いています。この未曾有の災害は、人と人とのつながりや地域で支え合うことの大切さを私たちに改めて教えてくれました。医療や福祉に携わる者として、県民の皆様が安心して暮らせる地域社会の実現に向け、それぞれの立場で役割を果たし続けることの重要性を強く認識しております。

今日、少子高齢化の進展や地域包括ケアシステムの充実など地域医療を取り巻く環境は大きく変化しています。そのような中で、柔道整復師に求められる役割も外傷への施術にとどまらず、健康寿命の延伸や介護予防、スポーツ活動への支援など地域に密着した幅広い活動へと広がっています。私たちは、これまで培ってきた確かな技術と高い倫理観を礎としながら、新たな知識や医療の進歩を積極的に取り入れ、県民の皆様が安心してご相談頂ける身近な医療専門

■二ッ谷 剛彦

(ふたつや たけひこ)
(公社)石川県柔道整復師会 会長

【プロフィール】

平成17年より理事を務め、以来、事業部長、保険部長、金沢北支部長を歴任。平成27年4月に副会長に、令和5年5月に第12代会長に就任する。



職として、地域に根差した活動を一層推進してまいります。

復興への歩みは一人の力だけで成し遂げられるものではありません。それぞれが持つ力を持ち寄り互いに支え合いながら前へ進むことで地域はより強く、より豊かなものとなります。私たち石川県柔道整復師会も会員一人ひとりが研鑽を重ね、その知識と経験を共有しながら組織としての力を高め、地域医療の一翼を担う公益法人として県民の皆様の健康と暮らしを支えてまいります。

本誌では、柔道整復師の活動や地域におけるさまざまな取り組みをご紹介します。本誌を通じて当会への理解を深めて頂くとともに、柔道整復師が県民の皆様にとってより身近で信頼される存在となることを願っております。

結びに、今後とも公益社団法人石川県柔道整復師会に対し変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。巻頭のご挨拶といたします。

第51回

定時総会を開催

～地域社会への貢献を念頭に事業活動を推進～

令和8年5月17日(日)午前9時30分より、
石川県地場産業振興センター大ホールにおいて
第51回公益社団法人石川県柔道整復師会
定時総会が開催されました。

1、開会の辞

西川 典孝副会長

2、会長挨拶

二ツ谷 剛彦会長

昨年、石川県柔道整復師会は創立100周年という大きな節目を迎え、記念式典を挙行いたしました。全国各地から多くの方々のご臨席を賜り、盛会のうちに無事終えることができましたことに心より感謝を申し上げます。



厳しい予算の中での活動となった昨年度を振り返る二ツ谷会長。

さて、本年は2年に1度の柔整療養費改定の年にあたります。本会といたしましても、料金改定の内容を含めた現場の声や提案を、これまで以上に日本柔道整復師会執行部へ届けてまいります。

物価高騰が続く中、昨年度は本会も非常に厳



真剣な面持ちで議案書に目を通す。

■第51回 定時総会 〈9時30分開会〉

総会員数／265名	出席者数／81名
委任者数／155名	欠席者数／29名

しい予算での事業運営となりました。しかし経費削減に努めた結果、ささやかではありますが会員の皆さまに物価高騰支援金をお渡しすることができ、大変意義のあることだったと思っております。

さて近年は、特殊詐欺被害の報道を目にしないうちが深刻な社会問題となっております。本会といたしましては詐欺撲滅に向けて連携すべく、石川県警察本部において協定調印式を行うことが決定しております。

今後も地域社会に貢献できるこのような活動を継続してまいりたいと考えておりますので、会員皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。
(要旨抜粋)

3、議長・副議長選出

議長に高出伸也会員(金沢南支部)、副議長に平林祐一会員(金沢北支部)を選出。



高出議長(左)、平林副議長が選出され、審議が進められた。

4、議事録作成人・署名人の選出

作成人／山田 誠会員(能登支部)

署名人／坂田 浩之会員(金沢北支部)

河村 三紀会員(金沢南支部)



各議案について担当理事が丁寧に説明を行った。

5、議案(審議事項)

第1号議案 令和7年度事業実施報告に関する件

担当／川上 勝総務部長

第2号議案 令和7年度収支決算報告並びに監査報告に関する件

担当／山田 誠経理部長

川上勝総務部長の説明の後、大徳勇監事より監査報告があり、適正に会計処理が行われている旨が報告された。

第3号議案 定款及び規程の変更にに関する件

担当／真酒谷 清法制委員長

第4号議案 その他

6、報告事項

①令和8年度事業計画に関する件

担当／川上 勝総務部長

②令和8年度予算に関する件

担当／山田 誠経理部長

③その他

7. 閉会の辞

津田 佳之副会長

総会終了後、昨年度入会した二又開会員(能登支部)、常山健秋会員(金沢南支部)の紹介がありました。

また今年は、石川県を会場に北信越ブ

ロック柔道大会・北信越学術大会が開催されます。6月13日(土)に行われる柔道大会に石川県代表として出場する小倉弘行会員(金沢北支部)、角浦大介会員(加賀支部)、窪田和樹会員(金沢南支部)が西川典孝監督より紹介されました。そして翌14日(日)の学術大会で川上勝会



昨年度入会の常山会員が紹介された(二又会員は当日欠席)。

石川県接骨師連盟総会が開催される

令和8年5月17日(日)午後1時より、石川県地場産業振興センターにおいて石川県接骨師連盟総会を開催。議長に高出伸也委員、副議長に平林祐一委員を選出し、次の議題について審議しました。

【議 題】

① 令和7年度事業実施報告に関する件

② 令和7年度収支決算報告並びに監査報告に関する件

③ その他

各議案とも詳細な説明と報告があり、賛成多

■委員総数 265名
■委任者数 157名

■出席者数 59名
■欠席者数 49名



岡田直樹参議院議員
(丹後智弘秘書)



佐々木紀衆議院議員

数にて承認されました。

なお、総会には佐々木紀衆議院議員と岡田直樹参議院議員の代理として丹後智弘秘書がお見えになりご挨拶を頂戴しました。

員(金沢南支部)が本会を代表して発表を行うことが、西剛志学術部長から紹介されました。

北信越ブロック柔道大会出場選手



写真左から西川監督、角浦会員、小倉会員(窪田会員は当日欠席)。

北信越学術大会発表者

石川県を代表して会員発表を行う川上会員が紹介された。

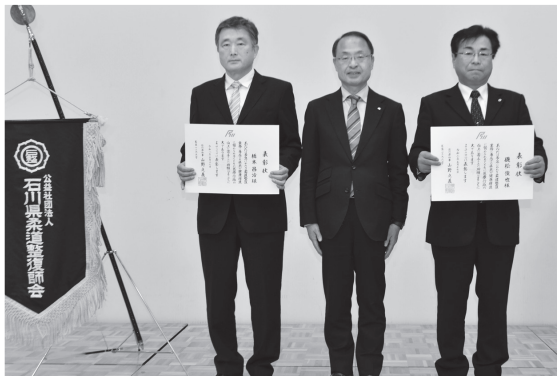


川上会員の発表では西学術部長が座長を務める。

表彰状授与式

午前11時30分より同会場にて表彰式が行われ、本会の事業運営に貢献された会員の皆さんに表彰状が贈られました。

今年度の石川県知事表彰は橋本昌治会員、磯松俊也会員の2名が受賞。山野之義知事よりお



山野知事を囲んで(左に橋本会員、右に磯松会員)。

高齢化が進む中、患者一人ひとりに寄り添い、お話を聞きながら施術を進める柔道整復師の役割は大きいものがあります。今後も県民の健康増進のため一層のご活躍を期待いたします。

山野知事は金沢市長時代からの本会とのご縁に触れ、長年にわたる支援に感謝を述べられた。



祝いの言葉を賜り、表彰状と記念品が授与されました。受賞者2名を代表して橋本昌治会員が、「加賀の地、そして石川県の温かい人々に支えられてきたことに深く感謝しております。今後も、地域医療と県民福祉の向上のため一層努力を重ねてまいります」と謝辞を述べました。

受賞おめでとうございます

本会
会長表彰

永年会員表彰

中田英朗・河村三紀・宮下勇介
月田考紀・今村 均・野村泉太郎
(会員歴25年以上)

日整表彰

生涯学習認定会員

中西 勝・山田 誠・高橋真哉
(3年連続35単位以上取得)

ボランティア活動優良会員

真酒谷 清

公益社団法人石川県柔道整復師会では施術者としてのスキルに磨きをかけるため、さまざまな講演会、研修会を実施しています。

公開学術講演会

開催日 ■ 令和8年2月15日(日)

会 場 ■ 金沢港クルーズターミナル

公益社団法人石川県柔道整復師会からの学びのメッセージ

流行を防ぐのは、 意識と知識

～地域の皆さまとともに
学び合う感染症対策講座～

PROFILE

金沢医科大学医学部卒。金沢大学医学部附属病院、石川県立中央病院等での勤務を経て、平成13年に父の跡を継ぎ長尾医院の診療に従事されることに。同院、並びに社会福祉法人美川福祉会みかわ子供園理事長を務める。石川県医師会、白山ののいち医師会、石川県臨床内科医会、日本臨床内科医会などで要職を務め地域医療の発展に寄与されている。

講師／医療法人社団長尾医院

理事長 長尾 信先生

講師の長尾信先生は、石川県医師会理事として感染症対策や医療DXを担当されています。今回の講演では、感染症に関する正しい知識と日常生活における感染対策・予防の重要性についてお話し頂きました。

感染予防の基本の“き”は 「手洗い」「消毒」

長尾先生はまず、感染症が世界へ広がってきた歴史的経緯について例を挙げながら示し、航空網の発達等により感染症が短期間で世界中へ拡大しやすくなった現代では、パンデミック(世界的流行)につながる危険性が格段に増し

ていることを解説されました。また、海外旅行、気候変動、人口動態の変化、経済発展なども感染症の発生や拡大に影響を与える要因であると紹介されました。

感染症予防の基本として、抗ウイルス薬の活用、人との接触機会の抑制、マスク着用とソーシャルディスタンスの確保、ワクチン接種の重要性を説明されました。また特に、感染症は病原体の侵入経路を遮断することが予防につなが



感染症が短期間で世界中に広がる一因にグローバル化の進展が。

ることから、正しい手洗いや消毒の徹底が特に重要であると強調されました。

■パンデミックは過去のことではない

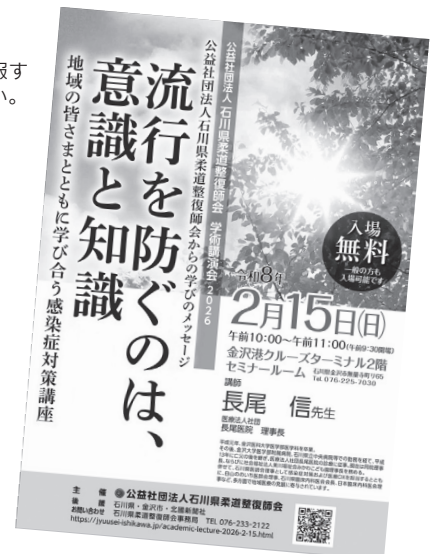
次に長尾先生は、細菌感染症とウイルス感染症の違いを説明。飛沫感染を防ぐためには症状のある人がマスクを着用するのが効果的であること、ノロウイルス対策には石鹸と流水による丁寧な手洗いとアルコール消毒の組み合わせが不可欠であることなど、日常生活に直結する実践的な内容についても学びました。

講演の後半では、新型コロナウイルス感染症に代表される「新興感染症」と結核のように再び流行し患者数が増加する「再興感染症」について解説が行われました。また、新型インフルエンザは今後も10年から40年周期で発生しパン

感染症を完全に克服することは容易でない。

デミックを引き起こす可能性があること、検査結果だけで感染の有無を判断することの危険性についても説明されました。

最後に、現在の新型コロナウイルス感染症の位置づけや基礎疾患を有する方の重症化リスクについて解説頂き、正しい知識と意識を持つことが感染症を予防するうえでいかに大切かを再認識する有意義な講演会となりました。



会員学術研究発表会

日々の施術を通して得た情報や知識を共有し高め合うことを目的に実施しています。令和8年度は2名の会員が発表を行いました。

『令和6年能登半島地震からみた被災柔道整復師の役割』

石川県との災害協定に基づき石川県医師会や石川県保健医療福祉調整本部と連携して行った能登半島地震での支援活動を踏まえ、被災地における柔道整復師の役割や地域医療への貢献、今後の災害対策に生かすべき教訓について報告がなされました。



金沢南支部
川上 勝会員

開催日 ■ 令和8年2月15日(日)

会 場 ■ 金沢港クルーズターミナル

『ききめ愛

(利き目・利き手・利き脳そして)』

人それぞれの身体特性や感覚の違いに着目し、利き目・利き手・利き脳の関連性を通して、身体の使い方や健康への新たな視点を提示する興味深い発表でした。



加賀支部
高熊 二夫会員

会員それぞれが、日頃の研究成果、長年積み重ねてきた経験をもとに発表を行いました。なお厳正な論文審査の結果、6月14日(日)に当県で開催が予定されている北信越学術大会の石川県代表発表者に川上会員が決定しました。

実技講習会

開催日 ■ 令和8年3月8日(日)

会 場 ■ 柔整会館 研修室

午前9時より日本柔道整復師会(以下、日整)主催「匠の技」技術講習会および本会学術部による第3回機能訓練マニュアル講習会が開催されました。いずれも実技を伴う講習で、臨床技術の向上につながる内容でした。

seminar 1 日本柔道整復師会「匠の技」技術講習会



長尾日整会長の挨拶の後、解説動画を視聴することから講習がスタートした。

講習は長尾淳彦日整会長の挨拶動画でスタート。前半の座学では日整「匠の技」講師の解説動画を視聴し、技術と知識の確認を行いました。

その後、当会の「匠の技」指導者および学術部員が講師を務め、会員研修用標準テキストを用いて、肩甲上腕関節脱臼における整復・固定施術の技術実習を実施しました。あわせて、超音波観察装置を活用した評価技術の実習も行われ、臨床に直結した技術を習得することができました。



「匠の技」指導者の大平会員が実習を担当した。

seminar 2 第3回 機能訓練マニュアル講習会

日整「匠の技」技術講習会続いて開催。まず当会学術部の西剛志部長が、最近の柔道整復師会における機能訓練およびフレイル予防の動向について説明を行った後、学術部員の浅居長太郎会員を講師に講習に入りました。今回のテーマは「腹筋・背筋の強化トレーニング」についてで、会員講習会用テキストに沿って行われた解説と実技は、日常の施術や健康指導に有益な内容でした。



背筋の強化トレーニングについて解説を行う浅居会員。

学術部主催 エコー勉強会 & ラーニングセッションを実施

令和7年9月14日(日)、柔整会館研室で「令和7年度エコー勉強会&ラーニングセッション」が開催されました。

1. エコー画像の描出方法を講義

大平和幸学術部員が「肘関節後方脱臼」を、高橋真哉学術部員が「鎖骨骨折、肋骨骨折」を担当。

2. ラーニングセッション

ファシリテーター役の堀松郁子、浅居長太郎両学術部員が進行。参加者が自由に発言できる雰囲気の中で、互いに学びを深めことができた。

臨床に役立つ実践的な内容で、参加者から「非常に有意義だった」との声が寄せられました。

公益社団法人日本柔道整復師会 北信越学術大会 石川大会

北信越5県から多数の会員が集結 交流を深める

令和8年6月13日(土)・14日(日)の2日間、ホテル金沢において(公社)日本柔道整復師会 第46回北信越学術大会石川大会が開催されました。本大会は全国7ブロック学術大会の幕開けとなる大会です。多くのご来賓をお迎えして行われた開会式・夕食会では地域の活動や災害対応について情報交換が行われ、会員同士が親睦を深める機会となりました。

開会式

学術大会会長である(公社)日本柔道整復師会の長尾敦彦会長が「災害時には柔道整復師が避難所での健康支援を担うことが期待されている。エビデンスに基づく活動を推進し、社

会の変化に対応した新たな役割を担うことが我々柔道整復師の未来につながる」と述べ、職域のさらなる発展に期待を示しました。



挨拶を述べる日整 長尾敦彦会長。

特別講演

大規模災害における避難所健康支援の課題

— 能登半島地震における柔道整復師との協働から —

講師／金沢医科大学病院救命救急科 特任教授 秋富 慎司 先生

秋富先生は、阪神・淡路大震災、JR福知山線脱線事故、東日本大震災など、数多くの大規模災害で活動されてきました。その豊富な経験と能登半島地震での支援活動とともに、災害医療の本質と避難所支援の在り方について講演されました。

平時とは違い、医療資源が著しく不足する中で多数の傷病者への対応が求められる災害医療の現場では、「一人を救う医療」から「一人でも多くの命を救う医療」へと発想を転換する必要があると秋富先生。また災害発生直後は、情報が錯綜し誤情報も多いことから、災害の本質を



講師の秋富先生は多くの災害医療現場で活動されてきた。

正しく理解し、状況に応じた冷静な判断が重要であると強調されました。さらに、過去の事例を通して、災害医療は医師のみで完結するものでなく、多職種がそれぞれの専門性を生かしながら連携することでより質の高い支援につながることを紹介。東日本大震災では柔道整復師が医療チームの一員として活動し、被

災害者の健康管理にも大きく貢献したことが報告されました。また例をあげながら「災害時には高齢者、子ども、女性、妊婦、障がい者など災害弱者への配慮が極めて重要です。『声なき声』をいかに拾い上げるかが支援の成否を左右します。身体的な傷病だけでなく、精神的負担や生活環境の変化にも目を向け、医療・保健・福祉が一体となって支援する体制が必要です」とも。

講演後半では、令和6年能登半島地震における石川県医師会 J M A T と石川県柔道整復師会との協働について紹介されました。本会では1月14日から3月末までに延べ159名の会員を派遣し122か所の避難所を巡回、246名に対して救護活動を実施し、外傷に加えて長期化する避難生活に伴う腰痛や膝痛などの運動器疾患、高齢者の生活機能低下への対応とともに、避難所の環境や被災者の健康状態を把握し J M A T や行政に情報提供を行うなど、多職種をつなぐ役割を担当しました。秋富先生はこの活動について、「避難所における健康課題や被災者の小さな変化を捉える『センサー』として極めて重要である」と高く評価したうえで、運動器疾患への対応にとどまらず、地域医療を支える専門職として柔道整復師が果たす役割の大きさを改めて示すものだったと総括されました。

発生が危惧されている南海トラフ地震などの災害に備えるためには、平時から医師会、行政、保健・福祉関係機関をはじめとする多職種との連携体制を構築し、継続的な訓練と情報共有を積み重ねることが不可欠だと秋富先生。「私たちは被災者であると同時に支援者でもある。自らと家族を守りながら地域を支えること、そのためには心のケアや防犯への備えも重要である」と講演を締めくくられました。

秋富 慎司^{1,2,3}、齊藤 典才¹、佐原 博之^{1,4}、安田 健二¹

1. 石川県医師会
2. 金沢医科大学 救急医学講座
3. 日本医師会 総合政策研究機構
4. 日本医師会

能登半島地震での本会の活動を学術視点から振り返ることができた。

日整講習会

日整学術教育部の徳山健司先生が柔道整復術のエビデンス構築について、小野博道先生が超音波観察装置(エコー)の臨床活用について講演されました。またワークショップでは、鎖骨骨折・肋骨骨折をテーマにエコー観察や固定法の実技指導が行われました。

臨床や災害時にも役立つ実践的な技術を学んだ。



会員学術発表

6席の発表があり、日頃の研究成果や臨床経験が報告されました。石川県代表の川上勝会員は「令和6年能登半島地震から

みた被災柔道整復師の役割」と題し、石川県との協定に基づき、医師会および保健医療福祉調整本部と連携して実施した救護活動や避難所調査について報告。経験から得られた成果と課題が紹介され、災害時における柔道整復師の役割を考える貴重な発表となりました。



川上勝会員



西剛志学術部長が座長を務め、活発な質疑応答が行われた。

表彰式が行われ、発表者に表彰状が贈られた。



公益社団法人日本柔道整復師会 北信越ブロック柔道大会石川大会

全国大会の北信越ブロック 代表選手が決定

令和8年6月13日(土)、石川県立武道館において第46回(公社)日本柔道整復師会 北信越ブロック柔道大会石川大会が開催され、北信越5県から参加した選手が日頃の鍛錬の成果を発揮して熱戦を繰り広げました。

開会式では、北信越ブロック会の宮下治由会長、(公社)石川県柔道整復師会の二ツ谷剛彦会長が挨拶を行い、選手たちに激励の言葉を贈りました。続いて、選手を代表して窪田和樹選手(石川県)が力強く選手宣誓を行い、競技が開始されました。

今大会には30歳代以下の部、40歳代の部、50歳以上の部の各カテゴリーに計14名の選手が出場し、30歳代以下の部で窪田和樹選手(石川県)、40歳代の部で宮越将太選手(富山県)、50歳以上の部で古谷富治選手(新潟県)がそれぞれ優勝を果たしました。なお、優勝した3人は、11月8日(日)に東京の講道館で開催される「日整全国柔道大会」に北信



北信越ブロック会
宮下 治由会長



石川県柔道整復師会
二ツ谷 剛彦会長

年代別の3つの部に
計14名が出場。

石川県代表の窪田和樹
選手による選手宣誓。

越ブロック代表として出
場します。

また、永年にわたる柔道の振興・発展への貢献を称え、「柔道功労賞」の表彰が行われました。受賞者は、20回表彰として石川県の小倉弘行六段、15回表彰として富山県の坂口貴彦六段と中邑克信五段、新潟県の古谷富治六段、5回表彰として石川県の窪田和樹五段が表彰されました。



試合後、柔道功労賞の
表彰が行われた(写真は
石川県の小倉六段)。

優勝した3人は北信越
代表として全国大会に
出場する。



会旗争奪少年柔道大会・少年柔道形競技会

団体戦は全日本柔道少年団 小松分団が3連覇！

団体18チーム、形競技7チーム
が参加した。

かほく市少年柔道教室の浅野選手が元気に宣誓。

(公社)石川県柔道整復師会主催の第39回会旗争奪少年柔道大会・第3回少年柔道形競技会が、令和8年5月10日(日)、松任総合運動公園体育館 啓武館で開催され、団体に18チーム、形競技に7チームが参加しました。

■ 観覧席は満員！熱い声援を受けて

本大会は「少年柔道を通じて心身の健全な育成に努めると共に親睦と友好を深め、少年柔道の振興とレベルアップに努める」という趣旨のもとで行われ、優勝チームには日整全国少年柔道大会・形競技会への出場資格が与えられます。当日は観覧席が満員となる盛況ぶりで、会場は保護者や関係者から送られる大きな声援と熱気に包まれました。

開会式では、選手を代表してかほく市少年柔道教室所属の浅野颯斗選手が力強く選手宣誓を行い、熱戦の幕が開けました。18チームの選手一人ひとりが日頃の稽古の成果を存分に発揮し、白熱した攻防が繰り広げられた柔道団体戦。迎えた決勝戦では、全日本柔道少年団小松分団が松任柔道スポーツ少年団を4-0で破り、見事3連覇を果たしました。どの試合でも、一本を目指して果敢に技を仕掛ける姿や最後まで諦めずに戦い抜く姿勢に会場から惜しみない拍手が送られ、会場は選手たちの健闘を称える温かい雰囲気になっていました。

満員の応援席から
熱い声援が。



■ 心の成長も感じられる大会に

また、第3回少年柔道形競技会には7チームが出場し、鶴来坂田道場の丸山莉穂・中島慶人選手組が優勝を飾りました。形競技会では、基本動作や礼法を重んじながら、息の合った演技と正確な技の表現が披露され、どのチームも日頃の鍛錬の成果を存分に発揮していました。

柔道は礼に始まり礼に終わると言われるほど礼法を重んじるスポーツです。選手たちはその柔道精神のもと正々堂々と試合・競技に臨み、互いに礼を尽くす姿が見られるなど、技術面だけでなく礼節や仲間を思いやる心の大切さを感じさせる大会となりました。

団体戦優勝の全日本柔道少年団小松分団、形競技会優勝の鶴来坂田道場(丸山・中島組)は、11月8日(日)に講道館で開催される日整全国少年柔道大会・形競技会へ出場します。石川県代表として全国の舞台上で活躍されることを願っています。

なお本会ホームページで、試合結果の詳細・団体戦決勝、形競技会の動画をご覧頂くことができます。





決勝戦。会場に張り詰めた
空気が漂う。



最優秀選手、優秀選手の皆さん。

会旗争奪少年柔道大会HPはこちら

<https://jyuusei-ishikawa.jp/sekkotu.index3syounennjyuudou.html>



どのチームも息の合った演
武で鍛錬の成果を発揮。

一本を目指して、果敢に
技をしかける！



全日本柔道少年団小松分団

- 優勝 全日本柔道少年団小松分団
- 準優勝 松任柔道スポーツ少年団
- 3位 窪田柔道倶楽部
- 3位 邑知少年柔道教室

最優秀選手 山根 明青

優秀選手 谷口 晴翔 供村 健吾
川端 俊介 吉野 悠



鶴来坂田道場 丸山(左)・中嶋組

- 優勝 鶴来坂田道場
丸山 莉歩・中島 慶人
- 準優勝 全日本柔道少年団小松分団
寺田 美空・宮越 大雅
- 3位 石川県立武道館柔道教室
森川 暖斗・森川 瑛斗

喜びの受賞者

100 周年記念式典および定時総会にて、地域医療に貢献された
5 名の会員に石川県知事表彰状が贈られました。

吾道を貫く忠恕の心

石川県柔道整復師会創立 100 周年、ならびに石川県柔道整復師協同組合創立 30 周年と大きな節目を迎えましたことは、会員にとって大きな喜びでございます。また、この栄えある式典において石川県知事表彰を賜りましたことは誠に光栄であり、関係者の皆様には感謝の念に堪えません。

私が石川県柔道整復師会に入会し接骨院を開業したのは、平成 6 年 12 月のことでした。以来 30 余年、地域の患者様に寄り添い続けてこられたのは、諸先輩方のご指導とご鞭撻のお陰であると深く感謝しております。開業当初より、論語の「吾道一以貫之」を胸に刻み遂行せんと歩んでまいりました。私にとっての「吾道」とは、孔子の説く「忠恕」、すなわち真心と思いやりを持って人に接する精神であります。その道は決して平坦ではなく、生涯をかけても辿り

着くことの出来ない険しい道であると承知しております。それでもなお、来世、来々世に至るまで追い求めたいと思

うは私自身の信念がその根幹となり常に支えとなっているからです。また、この 30 余年、幾多の困難を乗り越えてこられたのは故木嶋光仁先生、故竹内尚人先生より賜った教えのお陰であり、その教えは現在の私を形づくる礎となっております。

未だ道半ばの身ではありますが、今後も本会と組合の発展に微力ながらも力を尽くし、そのご恩に報いていくことが私なりの「忠恕」の形であると信じております。

この度は誠にありがとうございました。



岡本 透

常に感謝と精進の日々を重ねて

この度、石川県柔道整復師会創立 100 周年・社団設立 50 周年・石川県柔道整復師協同組合 30 周年記念式典の席上にて、名誉ある医療功労者知事表彰を馳浩石川県知事より賜り、身にあまる光栄と厚くお礼申し上げます。

そしてこれも、石川県柔道整復師会 ニッ谷

剛彦会長をはじめ、役員、会員、諸先輩方のご指導、ご支援のお陰と心より感謝申し上げます。

柔道整復師の道を目
指し木島学園北信越柔整専門学校に入学したの



高田 伸也

が27歳と少し遅いスタートでしたが、勉強と柔道の3年間は充実した日々を歩んできました。平成3年4月、柔道整復師の資格を得て研修に励み、平成6年石川県柔道整復師会に入会、平成7年5月に接骨院を開院しました。

とにかく今の自分に出来ることに集中し、迷いや解らないことは直ちに専門医に紹介しご教授を頂きました。これらを地道に続けることで、地域住民から信用と信頼を得ることが出来て

30年間、家族やスタッフの協力のもと頑張ってきました。たくさんの人との出会いから学ばせて頂き、経験を積み成長させて頂いたことに大変感謝しています。

これからも常に感謝の気持ちと日々の精進を積み重ね、本会の発展にも力を注いでまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど重ねて申し上げます、受賞の言葉とさせていただきます。

我らが石川県柔道整復師会の未来は明るい

この度、石川県柔道整復師会創立100周年並びに社団法人設立50周年記念式典の席上で、医療功労者石川県知事表彰を賜り心より御礼申し上げます。これもひとえに会員の皆様はじめ、ご推薦頂きました二ッ谷会長、関係各位のお力添えと感謝しております。

平成6年に、石川県柔道整復師会への入会と同時に津田接骨院を開業しました。あれから早31年が経過し、その間我々を取り巻く環境は目まぐるしく変化してきました。特に昨今の会員数は減少の一途をたどるばかりで、これに伴い事業規模も縮小され、以前は当たり前のようで開催されていたソフトボール大会やバーベキュー親睦会等も廃止されました。

そういった中で令和6年1月1日に発生した能登半島地震は、能登地区をはじめ周辺地域に甚大な被害をもたらしました。本会ですぐさま災害対策本部を立ち上げ、非常に多くの会員の皆さんが、救護活動や廃用予防の運動指導といったボランティア活動に協力をしてくださいました。会員数は減少しても絆を大切に、このような活動に対して精力的に尽力してくださ

る人たちの集まり、それが石川県柔道整復師会です。



津田 佳之

このような活動が続けることにより石川県柔道整復師会は社会に認められ、きっと明るい未来が待っています。私はこの会の一員であることに誇りを持ち、今後は石川県民の健康増進、本会の発展に寄与できるよう努めてまいります。

引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

石川県知事
表彰



写真左より津田会員、馳浩前石川県知事、高出会員、岡本会員。

日本 柔道整復師会 表彰

会長表彰

西川 典孝

※写真は巻頭ページに掲載。

会長感謝状

真酒谷 清 津田 佳之 森田 一哉



永年表彰



受賞者50名を代表して北本伊和
会員が表彰状を受け取った。

日整永年表彰の受賞者名

赤池敬順、有澤章良、池田秀夫、市川誠、稲森馨、今村泰信、宇野幸治、大徳勇、大森宣養、大西保治、大矢浩之、小川善弘、上島修、唐木均、北本伊和、小林明、佐川信之、嶋谷清、大門健、高熊二夫、田村修一、谷口研三、谷口勝、堂本義邦、戸嶋清彦、利波衛、中島信行、中田武太、西川典孝、錦川孝彦、西田英樹、西山龍司、橋本大衛、林英高、深井春雄、二ツ谷剛彦、藤森優、別宗金蔵、堀木勲、三國務、宮嶋宏祐、百谷実、森干城、森信夫、山崎栄一、山田訓央、山田善造、山本豊、吉野勝男、脇田富男

特別感謝状

山田 俊志

※以上、敬称略、順不同

※以上、100周年記念式典にて表彰された皆さんです。

100周年記念式典ダイジェスト動画から
表彰式の模様をご覧ください。

<https://youtu.be/sbj7yF5j9jM>



石川県 柔道整復師会 表彰

役員功労表彰

津田 佳之

森田 一哉

※写真は巻頭ページに掲載。

永年会員表彰

中田 浩大 吉田 将

※中田・吉田両会員は当日欠席。

令和6年能登半島地震 災害救護ボランティア活動感謝状



受賞者44名を代表して平林祐一会員が
表彰状を受け取った。

令和6年能登半島地震 災害救護ボランティア活動感謝状受賞者名

赤塚大輔、浅居長太郎、磯松俊也、越前護、大徳勇、大平和幸、岡本透、川上勝、河村三紀、木藤力郎、木山隆久、坂井秀一、坂下竜彦、坂田浩之、佐藤裕之、真酒谷清、高井篤志、田村修一、津田佳之、寺田拓二、堂本義邦、鳥本孝次郎、中川涉、中村克章、中西勝、西剛志、西川典孝、波佐谷兼潤、橋本昌治、濱亮輔、平林祐一、藤田宏幸、二ツ谷剛彦、古城忠、堀松郁子、南野立志、宮本孫之、今西扶希子、森田一哉、森田淳、森田琢也、山崎一平、山田俊志、山田誠

※以上、敬称略、順不同

協同組合 表彰



表彰業者

(株)エス・エス・ビー ● (有)ペイントハウス ●
(株)ファロス ● セントラルメディカル(株) ●
(株)WES ● ダイヤ工業(株) ● 重島医療器 ●
(株)山田写真製版所 ● (株)future ●
(株)イエーロ ● ヤマグチメディカル ●
(株)HELIO JAPAN 以上、12社(敬称略・順不同)

感謝と謙虚な姿勢を忘れずに

この度、山野之義石川県知事より医療功労者県知事表彰を賜り、心より御礼申し上げます。

平成7年に入会・開院して以来、31年余りが過ぎました。業界経験の浅かった私が今まで施術を続けてこられたのは、石川県柔道整復師会の歴代会長をはじめ、役員・会員の皆様から頂いた温かいご指導とご支援のお陰であり、心より感謝申し上げます。

会務では学術部員や支部委員を務めるほか、各種マラソン大会でのケアボランティア活動を通じて多くの会員の皆様と交流し、貴重な経験を積むことができました。その学びは、現在携わっている国民スポーツ大会や全国高等学校総合体育大会（インターハイ）などでのケア帯同活動にも大いに生かされています。

また、地域では子ども会やPTAの役員、町内の区長などを務め、途中、大病を経験しながらも多くの方々に支えられ、今日まで地域活動が続けてまいりました。

この度の受賞を励みとして、感謝の気持ちと謙虚な姿勢を忘れることなく、これからも地域社会への貢献と、来院される患者様お一人おひとりに真摯に向き合い、より一層精進してまいります。

今後とも皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。誠にありがとうございました。



橋本 昌治

無知は罪、日々研鑽に努める

この度は、第51回定時総会において山野之義知事より医療功労者県知事表彰を賜り、身に余る光栄と厚く御礼申し上げます。

平成7年に本会に入会して30年、これも二ッ谷会長をはじめ歴代の役員、学術部長、会員の皆様、本会事務局の皆様の皆様のご指導・ご鞭撻のお陰と心より感謝しております。

学生時代、故木島光仁校長先生より「医者が勉強をしないのは、犯罪なんだよ!!」と強烈な訓示を賜り、医療人たる者、無知なこと（治し方を知らないこと）は罪なのだと認識いたしました。

幸いにも良き師匠方に恵まれ、凡庸で不器用でも常に学ぶ姿勢を保つことが大切なのであり、毎日2時間以上、医学書で勉強することを

自らに課しました。これは私の趣味である武道の基本稽古の千日万日の鍛錬にも通じるように感じます。

お陰様で、愚鈍な私が学術部員を長年拝命し、学術功労賞まで頂くことが出来ました。

この名誉ある受賞を汚さぬよう、これからもますます修学精進を重ねて参りますので、ご指導・ご鞭撻の程をよろしく願いいたします。



磯松 俊哉

※橋本会員、磯松会員は第51回定時総会において山野之義知事より表彰状を授与されました。

サポート接骨石川(SSi)活動

本会ではスポーツ大会をはじめとする地域行事での救護活動に積極的に協力し、柔道整復師の専門性を地域社会に役立てるための取り組みを続けています。

報告 ①

第43回 野々市じょんからの里 マラソン大会

令和7年10月19日(日)、野々市じょんからの里マラソン大会が開催され、野々市市からの要請を受けて本会会員3名が救護スタッフとして参加しました。当日は秋晴れの爽やかな気候に恵まれ、参加したランナー達は沿道からの声援を受けながら野々市路を力強く駆け抜けました。



秋晴れの空のもと参加者が飛び出していく。

救護ブースでは、レース中やゴール後に生じた筋痙攣、捻挫、打撲、挫傷などの傷病に対し、柔道整復師の専門知識と技術を生かした適切な応急処置を行い、参加者が安心して大会に臨めるよう努めました。救護活動は、会員の連携と円滑な対応により大きな事故や重篤な傷病者もなく終了。今後も関係機関と連携を深めながら、地域住民の健康と安全を支える活動を継続し、スポーツ振興と安全な大会運営に貢献してまいります。

報告 ②

第11回 金沢マラソン2025

令和7年10月26日(日)に開催された金沢マラソン2025において本会は、大会主催者の依



頼を受けて救護活動を実施しました。

当日は朝から雨が降り続くあいにくの天候でしたが、国内外から約1万5000人のランナーが参加。本会から救護スタッフとして参加した13名は、事前の打ち合わせを行ったうえでゴール地点の救護ブースに配置されました。雨天により転倒が懸念される状況でしたが大会全体を通して大きな事故もなく、筋痙攣や外傷など約60名のランナーに対し、迅速かつ適切な応急処置を実施しました。

本会では毎年金沢マラソンの救護活動に協力しており、今後も関係機関と連携しながら安全・安心な大会運営に貢献してまいります。



約60名のランナーがブースを訪れた。



受付で負傷の状況を丁寧に聞き取る。

第32回

石川県柔道整復師協同組合 通常総会を開催

組合員総数 / 264名
委任者数 / 155名
出席者数 / 84名
欠席者数 / 25名

令和8年5月17日(日)、石川県地場産業振興センターにおいて石川県柔道整復師協同組合第32回通常総会が開催されました。



津田専務理事が理事長の挨拶を代読。

今総会は、諸事情により欠席した橋本大衛理事長に代わって、津田佳之専務理事が理事長のメッセージを代読。組合員に各議案の慎重な審議と組合運営への理解と支援を呼びかける

とともに、ご来賓、指定業者の皆様にもご指導・ご協力のお願ひがありました。

その後、波佐谷兼潤組合員(能登支部)が議長に選出され、次の議案について審議が行われました。

【議 事】

第1号議案 令和7年度事業報告

担当／赤池 央成総務委員長

第2号議案 令和7年度収支決算報告及び損失処理案並びに監査報告

担当／真酒谷 清財務委員長



第3号議案 令和8年度事業計画(案)

担当／赤池 央成総務委員長

第4号議案 令和8年度収支予算(案)

担当／赤池 央成総務委員長

第5号議案 賦課金の金額改定(案)

担当／真酒谷 清財務委員長

第6号議案 その他 協同組合の存在意義について質問があり、津田専務理事が説明。

以上の議案に対して、提案や活発な意見が交わされた後、可決され閉会となりました。



隣の会場では指定業者の展示会が行われた。



新入会
紹介員

よろしくお願いします!



金沢南支部

令和8年4月1日入会

常山 健秋 (つねやま たけあき)

生年月日 昭和56年10月29日

出身校 北信越柔整専門学校

住 所 白山市鶴来本町1丁目ワ-61号

接骨院名 常四鍼灸接骨院

電 話 076-272-0434

特技・趣味 スポーツ観戦、料理

インタビュー

素顔の
柔道整復師

磯松俊也 会員編

武術を通して身体と向き合う ブルース・リー創始のジークンドーにハマってます

小松市内で毎週土曜日に行われている武術練習会。磯松俊也会員は日々の施術にあたるとともに長年にわたり武術に親しみ、仲間たちとともに鍛錬を続けている。今回は道場にお邪魔して、武術を始めたきっかけやその魅力、柔道整復師として感じる身体への学びについて話を伺った。

——どのようなきっかけでジークンドーを始められましたか？

ブルース・リー先生への憧れですね。中学時代は強くなりたくて柔道をしていましたが、映画で見たあの怪鳥音と圧倒的なスピードに衝撃を受けました。映画館に通い、手作りヌンチャクを振り回していたほどです。しばらく武道からは離れていましたが、中高年になって健康の大切さを実感。「どうせやるなら新しい武道を」と7年前に始め、今は毎週土曜日、小松市内で稽古を行っています。

ブルース・リー直系のIUMA日本振藩國術館 石川小松支部に所属し、加藤将夫先生、大井インストラクターから基本動作や実践的な技術を学んでいます。また休日には筋力トレーニングを行い、身体づくりに励んでいます。

——ジークンドーの魅力を教えてください。

無駄を削ぎ落とした実戦的な動きとスピードです。技だけでなく、身体全体をどう使うかを学べる点にも魅力を感じています。また、憧れ

ジークンドー(截拳道)とは？

武術家ブルース・リーが創始し、型にとらわれず合理性や実践性を重視する考え方が特徴とされる武術。「自分自身を知る武術」とも言われ、世界中に愛好者がいる。

のブルース・リー先生の技法を理論的に学び体現できることも大きな魅力です。



スピード感のある鋭い動きが魅力だ。

——武術の経験を積むことと柔道整復師として施術の質を上げることに、相乗効果はありますか？ 互いに役立つことがあれば。

武術も施術も、毎日の基本鍛錬と学びの積み重ねが大切だと思っていますし、良い師匠や仲間恵まれること、常に学び続ける姿勢はどちらにおいても重要です。技術だけではなく、知

識や人格も磨き続ける武道は、「施術の道を極める」ことにつながるのではないかと感じています。

また柔道整復師が持つ、人体の構造や関節可動域、急所などの知識は武術にも大変役立っています。またケガの応急処置や身体を理解という面でも、柔道整復師としての経験は武術に活かされていると感じます。

——印象に残っていることは？

石川支部長の加藤先生から最小の力で最大の効果を発揮することを追求した「詠春拳」や「J K D 木人椿^{*}」の型を直接指導して頂いたことです。実践的で緻密な技術に大きな衝撃を受けました。



柔道整復師としての知識が武術にも役立っている。

※木人椿…詠春拳などの中国武術で使用される伝統的な訓練器具。

\\取材へのご協力ありがとうございました。//



磯松 俊也

(いそまつ としや)

プロフィール

平成7年に花園接骨院を開院。現在、本会学術部員、認定スポーツトレーナー、機能訓練指導員として活動し、学術発表にも取り組んできた。令和8年、医療功労者石川県知事表彰を受賞。

柔道・空手道・少林寺拳法などの武道経験を持ち、現在はジークンドーに取り組み、身体操作や身体感覚の探究を続けている。

——長く続けられている理由は何でしょうか？

仲間と楽しく汗を流せることです。無理をせず、自分のペースで続けられる環境にも感謝しています。健康維持やストレス解消にもなっており、何より練習後のビールが最高です(笑)。

今後の目標としては、まずこの三段腹を解消し身体を鍛え直したいですね。そして、武道を通して健康増進と精神修養に努め、常に謙虚に自分を磨き続けていきたいと思っています。

インタビューを終えて

最後に、「武術も柔道整復も、身体と向き合うという点では共通していると感じている」と磯松会員。「武道」と「施術」、一見異なるように見えますが、“身体と真摯に向き合う姿勢”がどちらにも共通していると感じられ、磯松会員の探究心と鍛錬を続ける姿勢が印象的な取材でした。

ご協力頂いた日本振藩国術館石川小松分支部の皆様に感謝いたします。

ジークンドーの稽古風景動画は
こちらから

https://youtu.be/qsEdWY0_-NI



secret spot

私の知らない石川県

日本最大のバイク・ツーリング・イベント 日没の千里浜を疾走 SSTTR

全国的に有名なのに石川県民には知られていないイベントがあります。千里浜なぎさドライブウェイをゴールに14年間も続く「SSTR」もそのひとつ。2012年に130人のライダーから始まり年々参加者が増加、今年は1週間の大会期間中、14000人のライダーが日本全国から千里浜海岸を目指しました。

「SSTR」とは「サンライズ・サンセット・ツーリング・ラリー」の略で、日の出とともに太平洋側の海岸を出発し太陽を追いかけて日本を横断、日没までに千里浜にゴールするレースです。スタート地点もコースも全てライダー自身が決めますが、途中で指定された道の駅やサービスエリアに立ち寄り、ポイントを獲得しなければ完走になりません。

短くて300キロ、最大では1000キロを超える距離を一日で走り切る！高速道路をトラックに混じって走るライダーや下道ばかりを原付で走るライダーもいます。天候が悪くても参加する日は大会に申し込んだ時から変更不可、渋滞や通行止めに遭う時もある。まさに運まかせです。それだけに、無事に「なぎさドライブウェイ」にたどり着き、今浜



夕日が沈むまでにゴールを！

ギャラリーも胸が熱くなる。

完走のビクトリーロード！
波打ち際を走る。

女性ライダーも年々増えている。



海岸から千里浜のフィニッシュゲートまでの「ビクトリーロード」走るライダーの全身からは完走した喜びが伝わってきます。11キロの波打ち際を走るバイクの列は感動ものです。

日本海側はスタート地点に含まれないため、どうしても参加したい石川県のライダーは前日に太平洋側まで走り日の出を待たなければなりません。そんなこともあって石川県民にその魅力が伝わっていないのが残念です。

バイクに乗れず体力もない私には、「ライダーは才能」だと思えます。私たちの会には50歳になって大型バイクの免許を取り、10日後には東京までツーリングをした会員がいますが、その元気と才能がうらやましい。そんな私も、人様から才能を認められたことが一度ありました。昔々、上司に連れられて行った不思議なお店で、「ねえ、会社なんて辞めてこっちへ来ない？あなた絶対に才能あるわよ」と。そうです私が認められたのは、なんと「オカマ」の才能だったのです。いやいや「オカマの才能」ってなんやねん？

受付開始から5分で参加枠が完売となる「SSTR」。行か行かないはあなた次第です。

Topics

- トピックス -

トピックス①

各支部にて保険講習会を開催



保険制度に関する最新情報の周知と適正な保険請求業務の推進、会員の資質向上を目的に県内各支部において保険講習会を実施しました。



西川典孝保険担当副会長

講師は真酒谷清保険部長と西川典孝担当副会長が務め、まず柔道整復療養費の請求状況や各種保険の統計資料をもとに近年の請求動向や審査状況について解説。

続いて患者照会に関する留意事項や対応について具体例を交えながら説明があり、日常業務で直面する課題への理解を深めました。また普及が進むマイナ保険証についても、最新の運用状況や今後の制度の方向性などについて説明が行われました。



真酒谷清保険部長

講習後は日常の実務に直結する質問が数多く寄せられ、活発な意見交換が行われました。会員の保険制度に対する関心の高さがうかがえるとともに、適正な療養費支給申請に向けて知識を深める貴重な機会となりました。

- <能登支部> 令和7年12月14日(日)開催
(能登食祭市場)
- <加賀支部> 令和7年12月21日(日)開催
(ウエルネスハウスSARAI)
- <金沢南支部・金沢北支部合同> 令和8年1月
18日(日)開催(ホテル金沢)

トピックス②

協同組合が物理療法セミナー実施



物理療法の有効性を改めて認識した。

令和8年3月15日(日)、柔整会館にて協同組合主催の物理療法セミナーを開催。伊藤超短波株式会社の新井慧氏から「自院での治療効果を目指せ120% ～物理療法有効活用術～」と題するご講演を頂きました。



講師の新井慧氏。

講演では、接骨院で日常的に使用している超音波治療器や電気治療器などの物理療法機器について、具体的な活用例や実践的な使用方法を紹介。症状に応じた機器の選択や施術への効果的な組み込み法など、治療効果を高めるためのポイントが分かりやすく解説されました。

また手技療法との併用による相乗効果や、今後の臨床における物理療法の可能性や展望が示され、日常の施術を見直す貴重な機会となりました。



トピックス③

石川県警察と特殊詐欺被害防止に関する協定を締結

特殊詐欺被害の未然防止と地域の安全・安心な暮らしの実現を目的に、本会は石川県警察と「特殊詐欺被害防止に関する協定」を締結。令和8年5月29日(金)、県警察本部において締結式が行われました。

近年、詐欺の手口は巧妙化しており、高齢者を中心に深刻な被害が続いています。本協定は、柔道整復師が施術の際の会話等を通じて患者の異変に気づきやすい立場にあるという特性を生かして被害防止に取り組むものです。

締結式では、石川県警察生活安全部の竹田勇部長より、「不要な国際電話の利用休止や警察が推奨する防犯アプリの活用を呼びかけ、地域ぐるみで被害防止に取り組んで頂きたい」と期待が述べられました。これに対して二ッ谷剛彦会長は、「患者様との信頼関係を大切に、地域の見守り活動の一翼を担う者として積極的に協力していきたい」と決意を表明しました。

本会では石川県警察と連携しながら情報提供や注意喚起を行うとともに、地域住民に寄り添う身近な医療従事者として、安全で安心して暮らせる地域社会の実現に貢献してまいります。



二ッ谷会長(左)と竹田勇石川県警察生活安全部長。

石川県警察本部にて。

トピックス④

金沢百万石まつりで救護活動を実施



活動を通して他団体との交流も生まれました。

第75回金沢百万石まつりが令和8年6月5日(金)から7日(日)まで開催されました。本会赤十字奉仕団・サポート接骨石川(SSI)は日本赤十字社石川支部の要請を受け、6日の百万石行列と百万石踊り流しで救護活動を実施しました。

百万石行列は、加賀藩初代藩主前田利家公の金沢城入城を再現する祭りの目玉イベントです。利家公役の大東駿介さん、お松の方役の菅井友香さんはじめ、約2,500人が隊列を組んで金沢駅東広場から金沢城まで練り歩き、沿道には約42万人の観客が集まりました。

また、行列の後も約9,000人が参加する百万石踊り流しが行われたこの日は、多くの奉仕団体から参加した総勢130名が安全確保のため活動。本会からは金沢北支部の会員3名が、骨折・捻挫・打撲・擦過傷・熱中症の応急手当のほか、救急搬送時の対応や迷子捜索などに従事しました。

本会の参加は今年で16回目です。他団体との



観客が並ぶ行列のコースを巡回中。

交流を深めながら地域の安全・安心に貢献できる救護活動を今後も継続してまいります。

❖『ビバ・シティ』第36号をお届けします。今年も多くの会員の皆様のご協力により、無事に発刊することができました。原稿や写真をご提供くださった皆様をはじめ、ご協力頂いたすべての方々に心より感謝を申し上げます。

❖今号では石川県柔道整復師会創立100周年記念式典をはじめ、(公社)日本柔道整復師会第46回北信越学術大会石川大会、北信越ブロック柔道大会石川大会、各種講習会や地域での救護活動など、本会のさまざまな活動を紹介しました。100年という歴史を振り返るとともに、地域に寄り添い、学びを深め、仲間と支え合いながら歩み続ける会員の姿を感じて頂ければ幸いです。

❖編集作業中、熊本県で震度7を記録する地震が発生しました。前回の震災から10年を経て再び被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。平成28年熊本地震で得られた経験や教訓は令和6年能登半島地震においても生かされ、石川県の柔道整復師も地域を支える活動に力を尽くしました。災害のたびに、人と人とのつながりの大切さと地域における柔道整復師の役割を改めて実感させられます。

❖北信越学術大会石川大会でも能登半島地震に関する講演や発表が行われました。この経験を風化させることなく、地域医療や災害への備えにつなげていくことが、私たちの使命だと考えます。
これからも石整広報誌『ビバ・シティ』が会員同士をつなぎ、100年の歩みを未来へつなぐ広報誌として、親しまれる一冊を目指してまいります。今後とも、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

<広報部長 森田>

❖今まで「自分は健康である」ということを全く疑わずに生活をしておりましたが、50代半ばに差し掛かり、初めて人間ドックを受けました。結果は散々で、治療が始まり、生活習慣を見直すこととなりました。禁煙、飲酒量の調整、減塩、運動などの指導を受けましたが、まるで人生の楽しみが半分になった気がします。

来院される患者さんと生活習慣病について会話をしていると、同世代以上の方は何かと健康に気をつけておられるようで大変感心しました。私も禁煙で四六時中気分が落ち着かず、薄味の食事に舌鼓を打ち、ビールを飲まない日を設けるといった“健康的で地獄のような日々”に早く慣れたいと思います。

<広報副部長 中川>



ビバ・シティVOL.36 石整広報122 (2026年9月20日発行)

■発行所／公益社団法人石川県柔道整復師会
石川県金沢市広岡2丁目3-26
TEL076-233-2122(代) FAX076-233-2196
E-mail ishiju@spacelan.ne.jp

■発行者／ニッ谷 剛彦

■編集者／西川 典孝・森田 一哉・中川 渉・中野 秀人・平林 祐一・太田 信幸・森 陽一朗・吉田 宜正



公益社団法人 石川県柔道整復師会

石川県金沢市広岡2丁目3-26

TEL076-233-2122(代) FAX076-233-2196

E-mail ishiju@spacelan.ne.jp

URL <https://jyuusei-ishikawa.jp>



撮影 能登支部 中野 秀人 会員

使用カメラ:NIKON D7200

レンズ:タムロンAF18-270mm

絞り:f/11 露出:1/500

ISO:1000

焦点距離:55mm

[SSTRピクトリーロード

なぎさドライブウェイ]

太平洋側を日の出とともに出発し、日没までに「千里浜」を目指す日本最大のツーリングラリー「SSTR」。300キロ以上を走破し「なぎさドライブウェイ」に到達したライダーからは達成の喜びが伝わります。「私もバイク乗りてえ」と憧れる瞬間です。そんなライダーたちの姿を夕日をバックに撮影しました。